

さか ぐち 坂 口 遺 跡

調査の概要

坂口遺跡は、東加茂郡旭町大字池嶋字坂口に所在する。遺跡は矢作川によって東西方向に形成された谷地形の左岸、河岸段丘高位面に位置し、川に向かう北向きの緩斜面（標高約114m）に立地している。調査は県道島崎豊田線拡幅工事の事前調査として、平成3年10月から平成4年1月まで行われた。

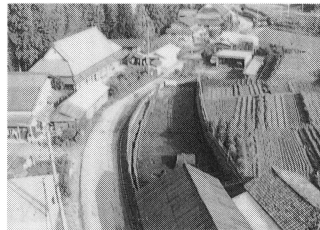
基本層序を概観すると、旧畑地の耕作土約30cmの下に明灰褐色粗粒砂層があり、この下に粗粒砂ブロックを多量に含む灰褐色シルト層が約30cm堆積している。このローリングを受けたと思われるシルト層の直下に、80～100cmの厚さで黒褐色シルト層が堆積しており、縄文早・前・中・後・晩期の土器、石器等がこの層に含まれている。この層内は肉眼による分層が不可能であり、遺構も検出し得なかった。したがって任意による分層（約10cm）でこの包含層を掘り下げた後、最終検出面では土坑状の落ち込み等を検出し得たが、遺構に伴う遺物は希少であった。

今回調査を行った坂口遺跡の遺構、遺物は、矢作川流域における縄文時代の文化動態を窺う上で貴重な資料になるものと思われ、古環境復元のための科学的分析も含め現在整理検討中である。

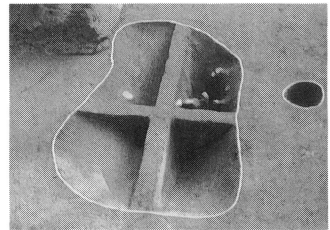
（松田 訓）



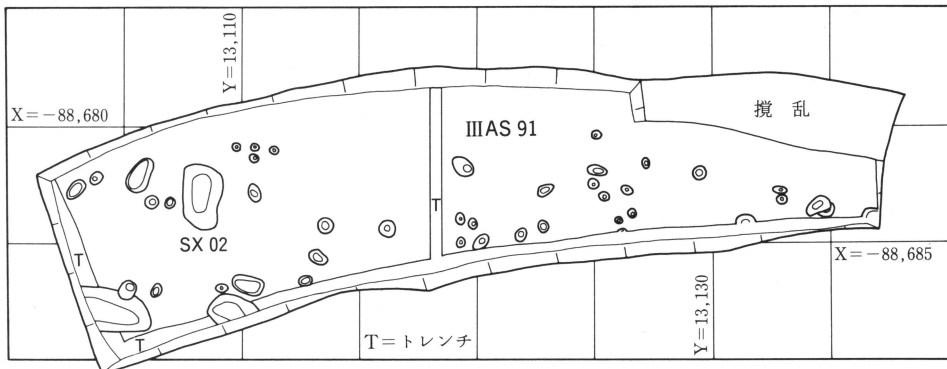
遠景（南東より）



全景（西より）



S X 02（北より）



第Ⅰ図 調査区遺構位置図